



新年のごあいさつ

新年あけましておめでとうございます。2023年は皆様にとってどのような年だったでしょうか。

2023年5月8日から新型コロナウイルス感染症が「5類感染症」へ移行しました。移行後、皆様の生活は少しずつコロナ前の日常に近づいてきているかもしれませんが、しかし、鳴りを潜めていたインフルエンザが流行しています。通常は11月頃から徐々に増えはじめ、1月に流行のピークを迎えますが、暑い時期も多くの方が発症し大変驚いています。どちらの感染症も手洗い・手指消毒やマスク・咳エチケットが大切です。我々医療機関はもちろんですが個々にも必要な対策を怠らないようにしていただきたいと思っています。

医療面以外でもさまざまな出来事がありました。世界では未だ出口が見えないウクライナ侵攻は続いており、加えてパレスチナ・ガザ地区の戦闘という悲劇が起こっています。日本でも大雨・台風被害や猛暑など、自然は私たちに試練を与え続けています。一方、ワールドベースボールクラシッ

クでは侍JAPANの世界一やMLBでの大谷翔平選手のMVP・ホームラン王、将棋での藤井聡太名人の八冠制覇、日本プロ野球では「アレ」など多くの人を元気づける出来事もありました。

高齢化と人口減少がより進むこれからの医療は問題が山積みです。この2024年も当医療センターは地域の医療を担う医療機関として重症心身障害者医療、結核医療、神経難病などの政策医療と、内科、呼吸器内科、消化器内科、循環器内科、脳神経内科、糖尿病内科、外科、整形外科などの急性期・回復期医療を提供していきます。また職員間のコミュニケーションが良好で、働くモチベーションの高い職場を目指していきたいと思っています。

2024年が皆様にとって穏やかで幸せを感じられる日常であることを願い、新年のご挨拶といたします。本年も何卒よろしくお願ひいたします。

令和6年 元旦
院長 阿部 聖裕

地域の輪



いろはホームケアクリニック

繋がる地域医療連携

当クリニックは2019年11月11日松山市の久米地区で開院しました。当初は私を含め4人しか職員はいませんでしたが、2023年11月現在では職員が医師3名、看護師5名、事務員6名に増え、2023年7月1日より松山市平井町に移転しています。

在宅医療を中心とした医療を行っており、クリニックや病院に通うことが負担になっている方の生活を医療面でサポートしています。在宅医療で行える医療は採血、心電図、エコーはもちろん、中心静脈栄養の管理、胃瘻の管理・交換（バルーン型のみ）、医療用麻薬の管理・使用、持続皮下注射、人工呼吸器の管理、腹膜透析の管理など多岐にわたり、医療重症度が高い方でも受け入れ可能ですのでお困りの患者様がおられましたら、ご相談いただくと幸いです。

私は、①生活が成り立つように介入、②患者様・家族様の想いに沿った治療を行う、③病院の負担を減らす、④地域で連携していく。この4点が大事だと思っています。

①②に関しては、在宅医療自体、患者様の自宅に医療者が訪問するため、病院と違って、患者様やご家族様の生活リズムを崩さないような医療をデザインしてあげる必要があります。お酒を飲んでいる方であれば、アルコールの影響が少ない薬を選んだり、ご家族様が疲れていたら、ショート

ステイやレスパイト入院を段取りしています。③に関しては、医師の働き方改革が実施されようとしているなか、救急病院の負担を減らしていけるように夜間や休日に往診を行い、入院の必要がない方はできるだけ自宅で対応していきたいと考えています。④は我々だけでは良い医療や介護は提供できないため、地域の皆様と連携を取りながら、多くの患者様を支えていければと思っています。どうぞよろしくお願いたします。

施設名：いろはホームケアクリニック

院長：飯森俊介

住所：〒791-0243 松山市平井町2495-1

電話：089-909-3688



医心伝心

骨粗鬆症のおはなし

国内で骨粗鬆症患者は1280万人いると推定されており、特に女性においては60歳代で5人に1人、70歳代で3人に1人、80歳代で2人に1人が骨粗鬆症と言われております。しかしながら実際に治療を受けている割合（受療率）は20～30%と少なく、日本は未だに骨粗鬆症診療において後進国となっているのが現状です。転倒・骨折は高齢者が要介護に至る原因において認知症・脳血管疾患・老衰に次いで第4位と言われており、特に背骨と股関節周囲の骨折は寿命を縮める事さえもあります。

よって骨粗鬆症診療では脆弱性骨折（立った状態から転ぶなどの軽微な外力での骨折）をいかに予防する事が重要となります。家庭で出来る対策としては①偏食をしない②日光浴（毎日30分ほど日差しの弱い時間帯に紫外線カットの化粧品などを塗っていない素肌に日光を当てる）③適度な運動（30分程度の体操やウォーキングなど）④家に手す

りをつけたりバリアフリーにするなど転びやすい場所の修繕、などが挙げられます。

当院では最も正確に骨密度を測定できる二重エネルギーX線吸収法（DXA）を用いて腰と股関節の2か所の骨密度を判定し、血液検査にて骨代謝の状態や血液の中のビタミンD・Kの濃度を測定する事で骨粗鬆症の診断を行っております。骨粗鬆症に該当すれば治療開始となりますが、治療効果は自分で実感しづらい事もあり途中で治療を自己中断してしまう患者さんも多く、いかに継続するかが大事です。患者さんやご家族と相談し継続できる可能性が高い薬物療法（内服・注射）を選択させて頂く事となります。

骨粗鬆症かどうか心配で検査を受けたい、指摘された事があるけどそのまま放置していたがやっぱり治療を受けたいなど、お困りの事があればお気軽に当院整形外科にご相談ください。

整形外科医師 玉井 辰弥



矢野理学療法士が、2023年に行われた心臓リハビリテーション指導士試験に合格しました。当資格は、心臓リハビリテーションを通じた循環器疾患の治療、ならびに再発予防とQOL(生活の質)の向上を目的に発足された認定制度です。

また間藤心臓リハビリテーション専従看護師は、2023年10月に、広島にて開催された第77回国立病院総合医学会において「A病院で心臓リハビリテーションを受ける高齢患者の抑うつ評価と要因分析」のテーマで発表し、ベストポスター賞を受賞しました。

近年の報告で、心不全の患者様が気分の落ち込みといった抑うつ症状を合併すると、生命予後が悪くなると報告されています。当院にてリハビリテーションを行っている循環器疾患で入院中の患者様を対象に、抑うつ症状の合併頻度と患者さんの背景について報告しました。当院の心臓リハビリテーション室では、舩田総括診療部長を始めとする循環器内科医師と共に、日々の臨床業務や学術活動に取り組んでいます。

心臓リハビリテーション室では、COVID-19の感染拡大に伴い長らく中止をしていた外来リハビリテーションを昨年7月より再開しました。今後とも当院に通院・入院される患者様に、より良いリハビリテーションの提供ができるように努めて参ります。

理学療法士 矢野 歩



間藤看護師(左)と矢野理学療法士

第77回国立病院総合医学会で
ベストポスター賞受賞

人工呼吸器管理と医療ケアを要する重症心身障害児の保育実践について ～医療度の高い障害児のプール遊びを実施して～

保育士 宮谷 智子

令和5年10月21日(土)～22日(日)に広島県立総合体育館で開催されました、第77回国立病院総合医学会にて「人工呼吸器管理と医療ケアを要する重症心身障害児の保育実践について～医療度の高い障害児のプール遊びを実施して～」というテーマでポスター発表を行いました。医療度の高い障害児の方に多職種で連携し安心安全にプール遊びを実施することができました。

これまで大きな学会での発表経験がなく抄録を始め、ポスターの作成、プレゼンの方法について学ぶことができました。また、発表会場は広く他のセッションと同時発表のため、焦らず、ゆっくり、はっきり聴こえるように心がけました。多くの方の前での発表にとっても緊張しましたが、当院から参加した職員の応援もあり、なんとか落ち着いて発表することができました。その甲斐あって「ベストポスター賞」をいただくことができ感謝しています。あ

りがとうございました。

1日目の夜には広島名物のお好み焼きを食べに夜の街に繰り出しました。会場近くの「みっちゃん」に入り、鉄板に運ばれてきたあつあつの「肉玉そば」や「牡蠣のホイル焼き」などを美味しくいただきました。少しの時間でしたが広島の夜を満喫することができました。

今回、準備段階から大変なこともありましたが、発表により自分を成長させてくれる良い機会となりました。

最後になりましたが、このような発表の機会をいただき、病院関係者の皆さまに感謝申し上げます。この学びを今後の療育に活かしていきたいと思えます。

療育指導室 保育士 宮谷 智子



心臓部

受電設備更新

昨年10月7日～9日の3連休を利用し、当院電気室内の受電設備更新整備工事を実施しました。

これは、令和3年度に投資同意のあった整備案件で、複数回の入札執行の後、令和4年春に契約を締結しましたが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴う、半導体の供給不足により、機器の納期が大幅に遅れ、ようやくこの時期の実施となったものです。

この日程に合わせ、例年実施している停電を伴う法定電気設備点検も行いました。通常であれば休日の、実質半日程度で行う停電作業が3日連続となり、この間は電子カルテの紙運用や、救急患者の一時受け入れ停止を行わざるを得ませんでした。

また、非常用電源を確保するため自家発電装置（本館病棟とそれ以外のエリア用の2基）の初の長時間運転や、調理場・食器洗浄を始め電源供給を停止できない部署への仮設発電機の設置等を行いました。

期間中は想定外の事態も発生しましたが、無事完了することができました。今回の更新整備により、今後20年程度は電気設備の機能を維持できるとのことです。

今回の作業のため、ご不便をお掛けした入院患者さん並びに休日にもかかわらず対応された方々に、この場を借りてお礼申し上げます。

企画課長 高須賀 賢治



受電設備外観と交換したVHBユニット

当院で働いてみませんか

看護助手(非常勤)募集中!

募集予定人数	若干名
採用面接	随時(事前に見学後、採用面接を行います)
給与	時間給 940円
手当	通勤手当 賞与 その他
就業時間	7時から21時の間の8時間程度 就業時間の上限は、週32時間 勤務時間は5～8時間程度で相談に応じます。
休日等	4週8休 有給休暇有
年齢	年齢制限はありません。
その他	月額賃金が8.8万円以上の場合、社会保険加入 マイカー通勤可能(無料駐車場有) 60歳以上の方歓迎
連絡先	愛媛医療センター 事務部管理課 庶務係長 電話 089-964-2411(代表) (内線208)



4年振りに開催

健康フォーラム2023



令和5年10月15日に東温市中央公民館において、東温市健康フォーラムが開催されました。このフォーラムは東温市医師会・歯科医師会、愛媛大学医学部附属病院、愛媛県病院薬剤師会、松山薬剤師会、東温市、そして当院の共催での開催です。

令和2年春に新型コロナウイルス感染症が流行しはじめ、自粛生活を強いられてきましたが、令和5年5月に5類移行になったことで、昨年は4年ぶりの開催となりました。開催に先立ち、5月に関係機関の代表者が集まり、4年ぶりの実行委員会が開催されました。その当時は4年ぶりの開催になる期待感と開催日の10月にコロナ感染症が再流行しているのではないかという不安を抱えながらも、久しぶりの委員会で活気がありました。そして、実行委員会で検討を重ね、「アフターコロナの生き生き健康づくり」というテーマで、様々なイベントを企画しました。

当院は副院長を中心に、「測ってみよう あなたの筋肉パワー」と題した筋肉量測定、薬剤師会のみ

なさんとの共同による「お菓子でおくすり作り」を担当しました。筋肉量測定では、当院が今年度新しく購入した「インボディ」という機械を会場まで運び、たくさんの方の筋肉量を測定することができました。測定後は当院作成の「筋肉をつけるためには？運動と食事のコツのお話です」というパンフレットをお渡しし、筋肉をつけることの大切さをアピールすることができたと思います。また、お菓子でおくすり作りのコーナーでは、多くの子供たちがお菓子をお薬に見立てて、分包機で調剤するという体験ができ、楽しそうな親子の姿を見ることができました。久しぶりの開催で、地域の住民の方と触れ合えることで自然と笑顔になることができ、素敵な一日になったと感じています。

そして、健康フォーラムに多くの家族づれや高齢の方が参加して頂いたことで、コロナ前の日常に戻れたような気がしてうれしく思います。このフォーラムのテーマである「アフターコロナの生き生き健康づくり」にもあるように、地域のみなさんが自ら健康づくりを行い、元気で健康な生活が送れるように、また地域との交流が深められるよう、次年度も参加・協力したいと思います。

地域医療連携係長 佐久間 千代子



お菓子でおくすり作り



ロコモチャレンジ（足腰の筋肉量測定）

医療安全管理 だより

こんなことしています

人工呼吸器にチェックシート活用中

人工呼吸器装着中の患者さんの状態観察や、人工呼吸器の設定状態の確認は、多様な視点で行う必要があります。

そのどれかの不具合に気づけなければ、直接患者さんの生命に関わります。

人工呼吸器に関するトラブルのひとつに、回路の外れによる換気不良があります。人工呼吸器装着中の患者さんは、日常ケアに全面的な介助が必要です。処置やケアを実施する中で、身体の動きに伴う回路への緊張や、接続部の緩みなどが外れる機会となります。

これまでは、人工呼吸器装着中の患者さんの観察

に20個の観察・確認項目のあるチェックシートを使用していましたが、ケアの都度正しくチェック出来るかという、精度への不安が問題でした。

そこで、この度「人工呼吸器装着中の患者に対する処置・ケア後の確認チェックシート」(以下、チェックシート)を作成しました。

処置・ケアの後に最低限ここだけは、という項目について呼吸サポートチームで検討を重ね、「患者さんの呼吸音」「酸素飽和度(SpO₂値)」「回路の接続状態」「チューブの位置」の4項目に絞りました。

チェックシートの使用を始めて約1年半が経過し、現在は回路外れに関連したヒヤリハットは、回路の緩みの発見など気づきの報告が増えた一方で、レベル2(患者に影響があった可能性)以上の報告はありません。

呼吸サポートチームでは週1回、人工呼吸器装着中の患者さん全員のベッドサイドへ訪問し、患者さんのニーズの把握をするとともにチェックシートの使用状況を確認しています。

2022年度日本医療マネジメント学会愛媛県支部学術集会でこの取り組みを発表し、奨励賞をいただきました。受賞はチームの役割の大切さを再認識し姿勢を正す機会となり、励みとなりました。今後も安全な医療を目指していきます。

医療安全管理係長 高岡 佐奈美



チェックシートの使用状況を確認中

四季燦餐 ～雑煮の巻～

あけましておめでとうございます。今年もどうぞよろしくお願いたします。

「年越しそば」を食べ、ゆく年を思い、「雑煮」を食べ、気持ちを新たに新年を迎えられる方も多いのではないのでしょうか。そこで今回は、「雑煮」についてお話ししたいと思います。

「雑煮」の歴史は古く、室町時代頃にはすでに食されていたようです。当時の武士の宴会では、必ず一番初めに酒の肴として雑煮が振舞われており、この習わしをもとに、一年の無事を祈りお正月に食べるようになったと言われています。

● 雑煮の違いあれこれ ●

・味付けについて

京都を中心に、白みそ仕立ての関西風、関東・中国・九州地方中心にしょうゆ仕立てのすまし汁といった具合に、味付けは地方によって、また家

庭によっても様々なので、ひとくりにすることはできませんが関西地方・関東地方という単純なものではなく、その土地の礎を築いた人が京都文化・江戸文化どちらの影響を受けているかが反映されているようです。全国的にすまし汁が多いのは、参勤交代で地方に江戸文化が伝わったためであるとも言われています。

・具材について

具は、大根、人参、ねぎなどの野菜に加えて、例えば東北なら山菜やきのこ、新潟ならサケやイクラ、広島なら牡蠣といった具合にその土地の産物が入るようです。山村なら山の幸、漁村なら海の幸が盛り込まれますが、逆に山間部などでは普段手に入りにくい塩ブリなどをお正月ならではのごちそうとして雑煮に入れることも多いようです。

にい～しい～
すまあじい～る～
すましじい～るう～

地方や家庭ごとに異なる「お雑煮文化」ですが、今年はいつもと一味違った「お雑煮」を召しあがってみてはいかがでしょうか。



9月23日(土)に、4年ぶりとなる学校祭を開催しました。今回の学校祭は、学校祭を経験したことのない2年生が運営することから、多くの卒業生が運営に協力をしてくれ、のべ200名のお客様に参加していただき、大盛況のうちに終えることができました。

予想を超える地域の皆様方の参加の中に、3人組の小学生の女の子がいました。声をかけると、「看護師に興味があったので、来てみました。とても楽しかった!」と話してくれました。後輩のいない2年生にとっては、自分たちの姿が、看護師を目指す小さな女の子の夢の後押しとなったかもしれないと、とても嬉しかったようです。

今年度の学校祭のテーマ「restart～新たな一歩を踏み出す～」には、自分たちを支えてくれている地域の方々や、患者様、病院関係者とのつながりを大切にしたいという学生の思いが込められていました。地域の方々や学校長先生をはじめとした愛媛医療センターの職員の皆様にも来校していただき、様々なイベントを通して交流を図ることができたようでした。学生は、「地域の方々にもこんなに応援していただいていたんだ」と普段たくさんの方に支えられていることを実感していました。



3年生によるダンスパフォーマンス

様々な人と交流をすることでしか学べない、感じられないことがあること、それは学生にとって大きな価値のあるものであることを改めて感じた学校祭でした。

来年度は最後の学校祭です。どのような形での開催となるかわかりませんが、これまで20年余りの間、学生の学びを応援していただいていた多くの方へ、恩返しとなるような機会となることを祈っています。

看護学校 亀田 まゆみ

ちよつと言い放し

愛媛医療センターニュース編集委員の持ち回りでお届けします。

諸般の事情により、弊紙の記事には全て、字数制限がかかっている「ちよつと言い放し」であれば、八百字程度、最大一千字まで、と言った具合だ。私なぞは、思いついた言葉をだらだらと書き連ね、垂れ流しているだけなので、このレギュレーションがネックとなっていて。一通り書き終えたら、あつちを削り、こつちを線で消して…

という作業を経て、完成稿となる。読み返してみれば「これが、まあ」と暗澹たる気持ちになる出来だ。

それと比べると、徹底的に言葉を削ぎ落とし、究極まで凝縮した俳句などは、言葉の大吟醸と言いたくなる代物だ。私の拙文などはさしずめ、くず米で作った密造のどぶろくと言ったところだろうか。散文と定型短詩を比べる暴挙は分かりつつも、そう思わずにいられない。

中学生の頃、国木田独歩の『武蔵野』や、森鷗外の『杯』に出会ったときの『なんて美しい日本語だろう。ボクもこんな美しい文章を書けるようになりたい』という感動と憧れは、今も熾火のように胸に揺らめき続けてはいるが…徒に馬齢を重ね、駄文を書き散らすばかりで、

自分の文体というものが確立できていない有様だ。

文章のあちらこちらに、憧れの作家の技法を真似て散りばめたりしてはいるが、所詮は借り物紛い物。本物には到底及ばない。「あつ、これはあいつの文章だ」と、誰が読んでも分かる文体を確立できるのはいつの日か…ほんの一文、いやせめてワンフレーズでいい。誰かを唸らせ、感動させる言葉を紡ぎ出せないものか。と呻吟する日々。

天から授かった才も、秀でた才もない凡愚が、今回も、あれやこれやの言の葉を、矯つ眇めつ眺めて、弄くりまわし、転がし廻し、ようやく捻り出した拙稿がこれである。とくとご覧あれ。

樹懶菴

推すがいいか
敲くがいいか…



外来診療担当医表

現在、当院では外来診察室の工事を行っており、診察場所が変更となる場合があります。
診察場所について、ご不明な点があれば、医事受付窓口までお問い合わせください。

診療科	診察室	午前・午後	月	火	水	木	金
循環器内科	6診	午前	船田	船田	関谷	岩田	関谷
		午後		堀江	船田		
消化器内科	9診	午前	古田	廣岡	久保	加藤 (糖尿病専門)	久保
		午後					
	11診	午前			加藤		
	12診	午前				大藏	
呼吸器内科	10診	午前	阿部	伊東	佐藤	三好	伊東
		午後					田邊
	11診	午前		渡邊		仙波	
		午後					
	8診	午前					山本
		午後	三好				
脳神経内科	8診	午前				尾原	
	12診	午前	尾原	戸井			戸井
		午後	大八木				
整形外科	14診	午前				田窪	
	15診	午前	宮本			宮本	
	16診	午前	玉井	田窪	玉井		
リハビリテーション科	15診	午前		曾我部	曾我部		
消化器外科	14診	午前		鈴木	森本		
呼吸器外科	14診	午前					湯汲
小児科(神経外来)	14診	午後	菊池		桑原		菊池

専門外来(予約制)		月	火	水	木	金
心臓外科外来	16診					泉谷
ペースメーカー外来	16診				第2・4(午後)	
糖尿病外来	11診					宮崎(第4)
フットケア外来	小児面談室				隔週	
スキンケア外来	救外		第1・3(午前)			
ペインクリニック	12診			山内(午前)		
じん肺外来	16診					西村(第1午前)
アスベスト外来	14診		午後		午後	
息切れ外来	11診	渡邊(13時30分~)				
SAS外来	11診					渡邊(14時~16時)
頭痛外来	16診				永井(第2・4午前)	
神経難病	8診			橋本		

※外来受付は8時30分から11時までです。内科は13時から16時までです。
ただし、土・日・祝祭日・年末年始(12月29日~1月3日)は休診です。
※SAS(睡眠時無呼吸症候群)

2024年1月1日現在

独立行政法人国立病院機構 愛媛医療センター

〒791-0281 愛媛県東温市横河原366 TEL 089-964-2411 FAX 089-964-0251
ホームページアドレス <https://ehime.hosp.go.jp>

※弊紙の基本方針として、掲載写真については原則ご本人様の了解を頂いております。

※弊紙へのご意見ご要望ご感想は、当センター内病院新聞編集委員会(担当:小倉)までお寄せください。